

し、現在まで19例を経験し、良好な成績を得ている。現時点での我々の施設における適応、手技、成績を報告する。

33. 総胆管 hyperplastic polyp の1例

(筑波胃腸病院)

日高 真・大橋 正樹・鈴木 修司

総胆管の良性腫瘍は稀であり、現在まで本邦では、37例の報告しかない。内、hyperplasiaは12例である。今回、polyp状を呈したhyperplasiaの1例を経験したので報告する。

症例は64歳の女性。5年ほど前から、右季肋部痛、背部痛が出現、他院にて異常ないといわれてきた。血液生化学データでは、軽度の糖尿病とエラスターゼIの軽度上昇が認められるのみで、他には異常はなかった。ERCPにて、下部胆管に、逆U字型の陰影欠損を認めたため、下部胆管の腫瘍と診断し、全胃幽門輪温存膵頭十二指腸切除術を施行した。現在、症状も消失し、経過は良好である。

原因不明の右季肋部痛背部痛には胆管の直接造影検査が必要と考えられる。また、胆管腫瘍は悪性が否定できないかぎり、膵頭十二指腸切除が望ましいと考えられる。

34. 特異な画像所見を呈した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1切除例

(社会保険山梨病院外科、*同病理)

木暮 道夫・植竹 正紀・飯室 勇二・
草野 佐・小澤 俊総・矢川 彰治・
野方 尚・小俣 好作*

黄色肉芽腫性胆嚢炎 xanthogranulomatous cholecystitis (以下 XGC と略) は、胆嚢炎の一形態だが、腫瘍を形成すると胆嚢癌との鑑別が困難であるとされている。我々は、肝被膜下に広範な液体貯留をきたし、興味深い画像診断を呈した XGC を経験した。

症例は61歳の女性。右季肋部痛を主訴に当科を受診した。血液データは炎症反応のみであった。USでは胆嚢壁の肥厚と胆嚢内隆起性病変の他に、肝後下区域足側および右横隔膜下に fluid collection を認めた。CT、MRIにて、肝周囲の液体は、肝被膜下に存在した。Angioでは、炎症所見のみで積極的な悪性所見はなかった。術中所見、病理診断にて XGC と診断された。

35. 診断が困難であった膵尾部癌の1例

(くず葉台病院)

本橋 洋一・小野 邦良・高橋 元治

症例は、70歳、男性。1992年7月末、心窩部膨満感

出現。8月中旬、当院を初受診する。血液生化学検査、腹部超音波検査、上部消化管造影、上部消化管内視鏡検査を受け、滑脱型食道裂孔ヘルニアの診断にて加療。しかし症状軽快せず、9月中旬、精査目的にて入院となる。各種検査後、CA19-9が3,300と著明な上昇、腹部CT検査により切除不能な進行膵尾部癌と診断。今回、診断が遅れた原因として、外来にて、腫瘍マーカーの不測定、上部消化管造影・内視鏡での胃体上部後壁の壁外性圧排所見の見逃し、腹部超音波にて膵尾部の描出ができなかったことがあげられる。腹部不定愁訴で来院する外来患者に、膵癌の可能性も考慮してスクリーニングをすすめるべきと思われた。

36. 急性発症自己免疫性肝炎の1例

(東女医大成人医学センター、

青山病院消化器内科)

日野 生子・栗原 毅・安達由美子・
西川 和子・日野 成子・山形美帆子・
秋本真寿美・黒川 香・石黒 久貴・
新見 晶子・高田茂登子・前田 淳・
重本 六男・山下 克子・横山 泉

52歳、女性。1984年3月より年2回成人医学センターにて、健診を受けており、1992年3月まで肝機能異常は、指摘されていない。同年8月より全身倦怠感、手指関節痛が出現、外来で急性肝炎様の肝機能障害を指摘され入院となった。肝機能障害、高ガンマグロブリン血症、抗核抗体陽性、肝炎ウイルス関連抗原陰性、肝生検で急性肝炎様の像を示し自己免疫性肝炎と診断し、プレドニン投与、トランスアミナーゼは正常化した。本症例は発症前の検査値が把握されており、発症の進展機序を考える上で示唆に富む症例と考えられるので報告する。

37. 胆汁うっ滞型肝障害にプラバスタチンナトリウムが著効したと考えられる1例

(至誠会第二病院消化器内科、

*東女医大成人医学センター)

根本 行仁・池田みどり・鈴木 義之・
足立ヒトミ・黒川きみえ・栗原 毅*

症例は72歳女性。1991年10月頃より黄疸、皮膚癢痒感出現し近医入院精査するも原因不明、1992年2月当科入院となった。入院時 T-bil 18.6, GOT 139, GPT 74, T-chol 922, ウイルスマーカー陰性、自己抗体陰性で、画像上閉塞性黄疸や胆道系の炎症は認めなかった。T-chol 著明に上昇するためプラバスタチン10mg/dayの投与を開始したところ、黄疸、肝機能改善し、組

織学的にも肝細胞の再生を認めた。

プラバスタチンはコレステロール合成阻害作用を主とする HMGCoA 還元酵素阻害剤であるが、最近 PBC に対して著効を示したという報告もある。我々は胆汁うっ滞型肝障害にプラバスタチンを投与し、著明な効果が得られたと考えられる 1 例を経験したので報告する。

38. 亜急性肝炎の経過をとった薬剤性肝障害（イブリフラボンによる）の 1 例

（¹至誠会第二病院消化器内科，²東女医大消化器病センター，³東女医大第一病理）
池田みどり¹・根本 行仁¹・鈴木 義之¹・
足立ヒトミ¹・黒川きみえ¹・橋本 悦子²・
森川 智子³・豊田 智里³

骨粗鬆症治療薬が原因と推定された亜急性肝炎の 1 例を経験した。症例は 67 歳女性、骨粗鬆症治療のためイブリフラボン 600mg/day の内服を開始し、5 カ月後に嘔気、全身倦怠感出現、GOT、GPT の上昇を認めたため入院となった。ウイルスマーカー、自己抗体はすべて陰性、イブリフラボンによる DLS 陽性であったことから、薬剤性肝障害と診断された。主訴出現後約 10 週後に、凝固能の著明な低下と肝性脳症 II 度が出現、種々の治療にもかかわらず、さらに 8 週後に呼吸不全で死亡した。剖検で肝は 636g と萎縮著明で、表面にちりめんじわを認め、病理組織では中心静脈を中心とした肝細胞壊死が広範に認められた。本例は薬剤起因性の亜急性肝炎と考えられたため、興味ある 1 例として報告した。

39. 高齢者における C 型肝炎の検討

（東女医大第二病院内科 II）高橋 春樹・
富松 昌彦・岡野 晃・森 治樹

高齢者（70 歳以上）の肝疾患 42 例中、HCV 抗体（C100-3 抗体あるいは第 2 世代抗体）が陽性と C 型肝炎は 22 例（52.4%）とその頻度は高く、CH 12 例、LC 10 例であった。両群とも GPT は低値安定例が多かったが、HCV-RNA は大部分 3+ でウイルス量の低下は認められなかった。このことは、高齢者の C 型肝炎における定期的な経過観察の必要性を示唆するものであり、また IFN 療法に対して高齢者の有効率が低い一因となっている可能性を示すものと思われた。

なお、今回 HCV-RNA 量は RT-seminested PCR 法を用い半定量的に測定し、ウイルス量の指標とした。

40. C 型肝炎 GPT 安定例における HCV 抗体と HCV-RNA の検討

（東女医大第二病院内科 II）岡野 晃・
富松 昌彦・高橋 春樹・森 治樹

〔対象と方法〕対象は HCV 抗体（第 2 世代）陽性の 39 例で、GPT の変動により安定群（最近 1 年間 GPT 100IU 未満を持続する群：19 例）と高値群（間欠のないし持続的に GPT 100 IU 以上となる群：20 例）に分類し、安定群に対し HCV-RNA（半定量検査：RT-seminested PCR）、C100-3 抗体（RIA）、GOR 抗体（EIA）を測定し、対照として高値群においても HCV-RNA を測定した。

〔結果〕① GPT 高値群では HCV-RNA 陰性例は認められなかったが、GPT 安定群では 21%（19 例中 4 例）に認められた。② GPT 安定群では HCV-RNA と GOR 抗体は良く一致し、GOR 抗体は HCV のウイルス量を反映する良い指標になりうると考えられた。

41. B 型慢性肝炎 HBsAg 消失例に関する検討

（¹国立横浜病院消化器科，²同臨床研究部，
³東女医大消化器内科）

岩部 千佳・風間 吉彦・小林 潔正・
吉田 憲司¹・松島 昭三・小松 達司・
進藤 仁・林 直諒²・加藤 純子・
長谷川 潔³

B 型慢性肝炎の治療中に HBsAg の消失まで確認できる症例は極少数である。今回我々は慢性肝炎と診断し、その後の経過観察で HBsAg の消失を確認し、HBV の存在について PCR 法による検出を行い得たので報告する。症例は男性 5 例、女性 1 例で年齢は 31~60 歳で全例輸血歴、手術歴や大量飲酒歴もない。入院時検査所見では、全例 HBsAg は陽性で、HBcAb は高力価であった。Transaminase はほぼ全例初診より約 3 年以内に正常化し、HBsAg の消失にはいずれも長期を要した。HBsAg 消失し、HBsAb 陽性となった時点で PCR 測定した 5 例中 4 例が HBV 陰性となった。

42. HBe 抗体持続陽性慢性肝炎におけるトランスアミナーゼの変動について

（¹国立横浜病院臨床研究部，²同消化器科，
³東女医大消化器内科）

松島 昭三¹・小松 達司¹・進藤 仁¹・
林 直諒¹・岩部 千佳²・風間 吉彦²・
小林 潔正²・吉田 憲司²・加藤 純子³・
長谷川 潔³

DNA polymerase, Dot-blot 法による HBV-DNA の測定は HBV の活動性の指標として有用である。